

岩手県北部の沿岸における津波被害の特徴



岩手大学 小笠原敏記・松林由里子・堺茂樹



岐阜大学 安田孝志



洋野町種市漁港

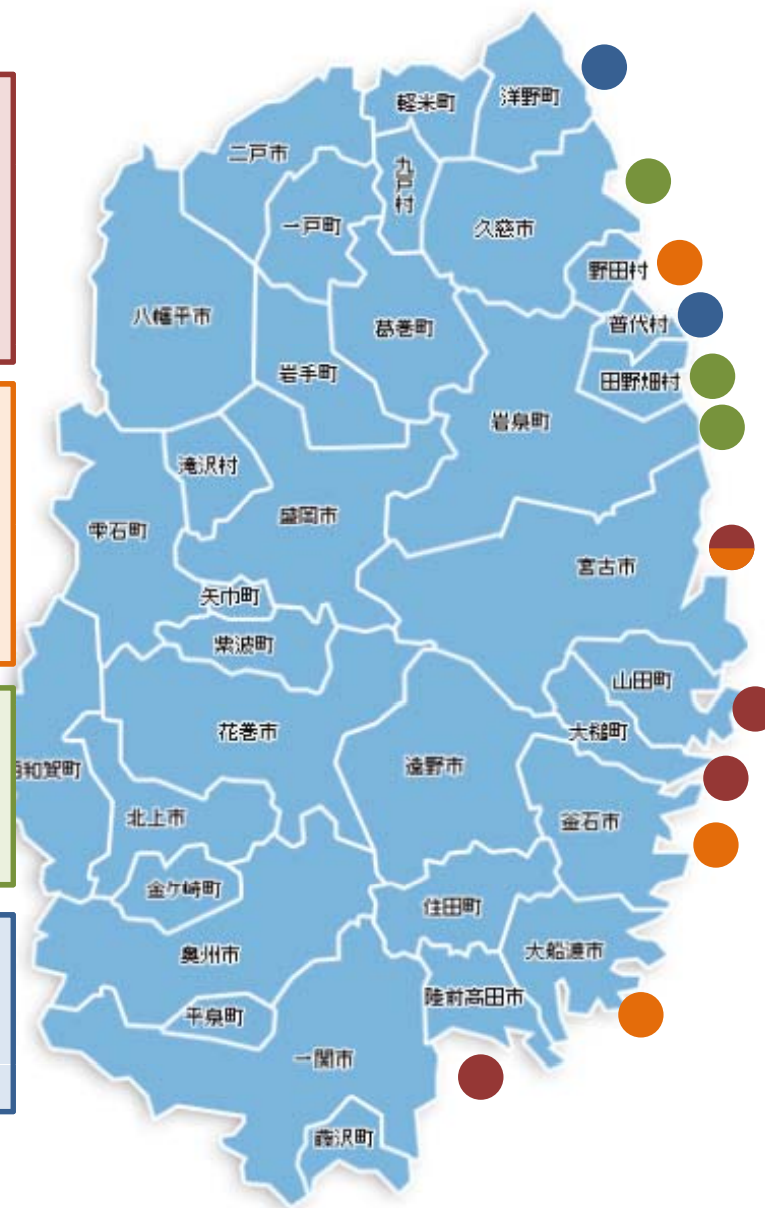
県内の津波被害の概要

● 壊滅的な被害を受けた地域
宮古市田老, 山田町, 大槌町,
陸前高田市

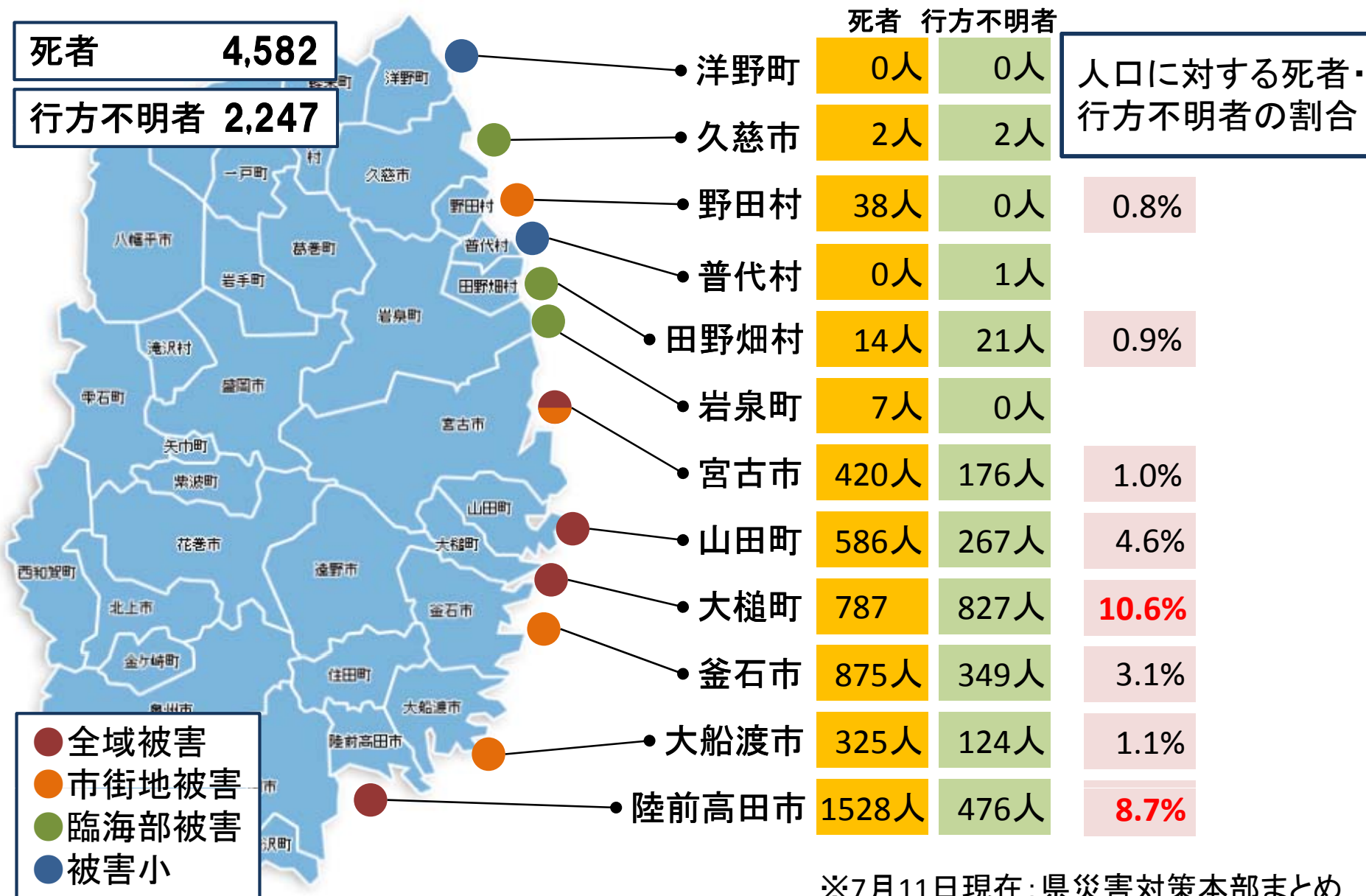
● 市街地を中心に被害を受けた地域
野田村, 宮古市, 釜石市, 大船渡市,
大船渡市三陸町

● 臨海部の集落に被害を受けた地域
久慈市, 田野畑村, 岩泉町小本

● ほとんど被害のない地域
洋野町, 普代村

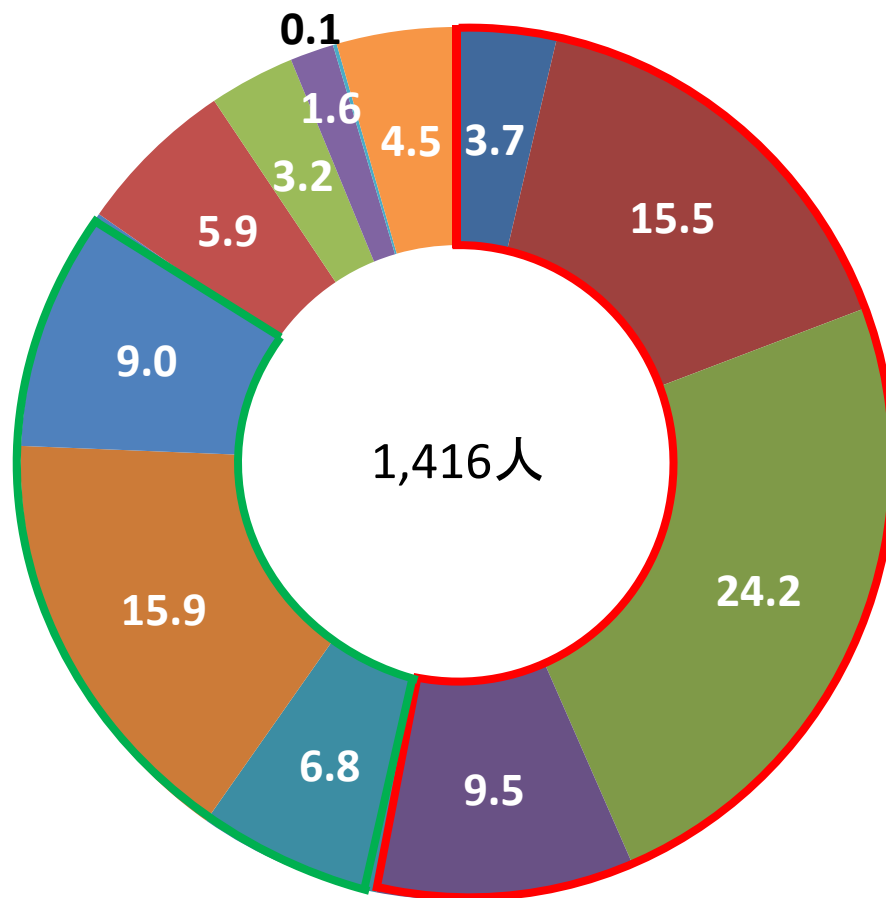


県内の被害者数①



県内の被害者数②

震災1ヶ月後の死亡者数の年齢分布



90歳以上
80～89歳
70～79歳
65～69歳

約5割を占める

60～64歳
50～59歳
40～49歳

約3割を占める

30～39歳
20～29歳
10～19歳
6～9歳
6歳未満



漁港海岸の被害状況

全体漁港海岸	防潮堤整備箇所	防潮堤延長	水門	門扉	突堤	離岸堤
現有施設	55箇所	39,492m	142基	331基	341m	1,554m
被災施設	52箇所	25,341m	52基	137基	143m	644m
被災率	95%	64%	37%	41%	42%	41%

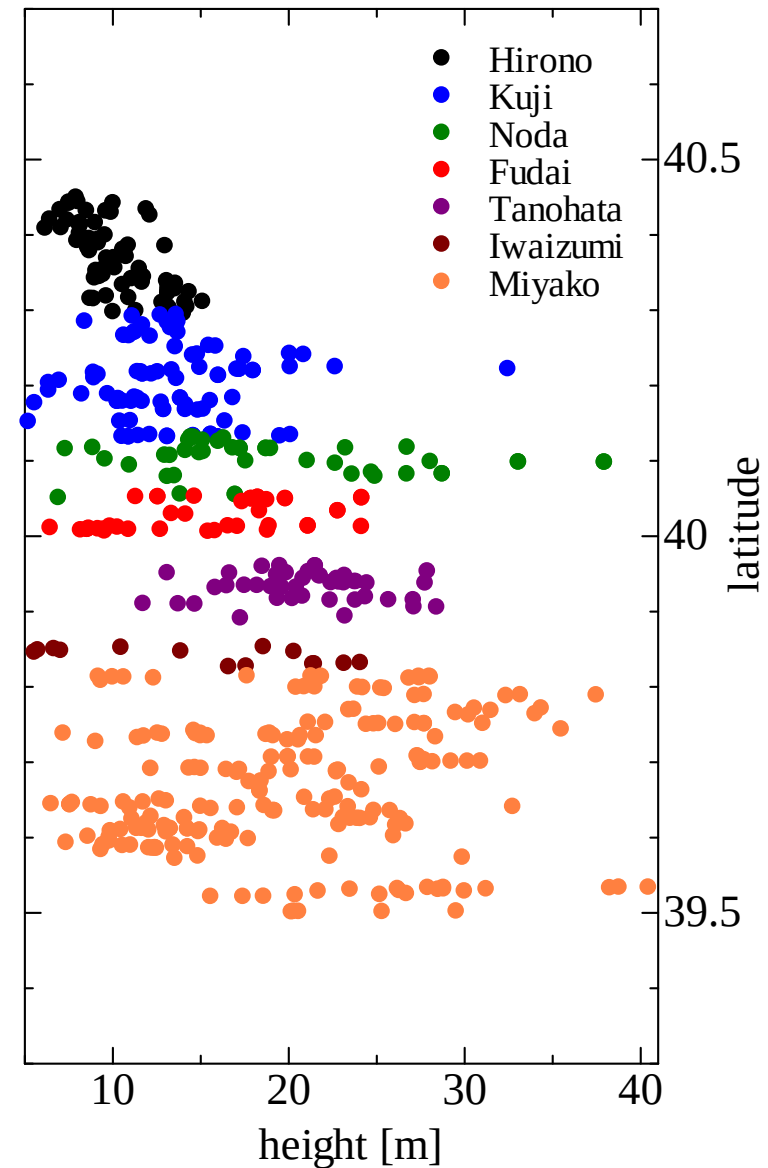
■ 田野畑村島の越漁港



撮影: 2011.5.30



岩手県北部の遡上高

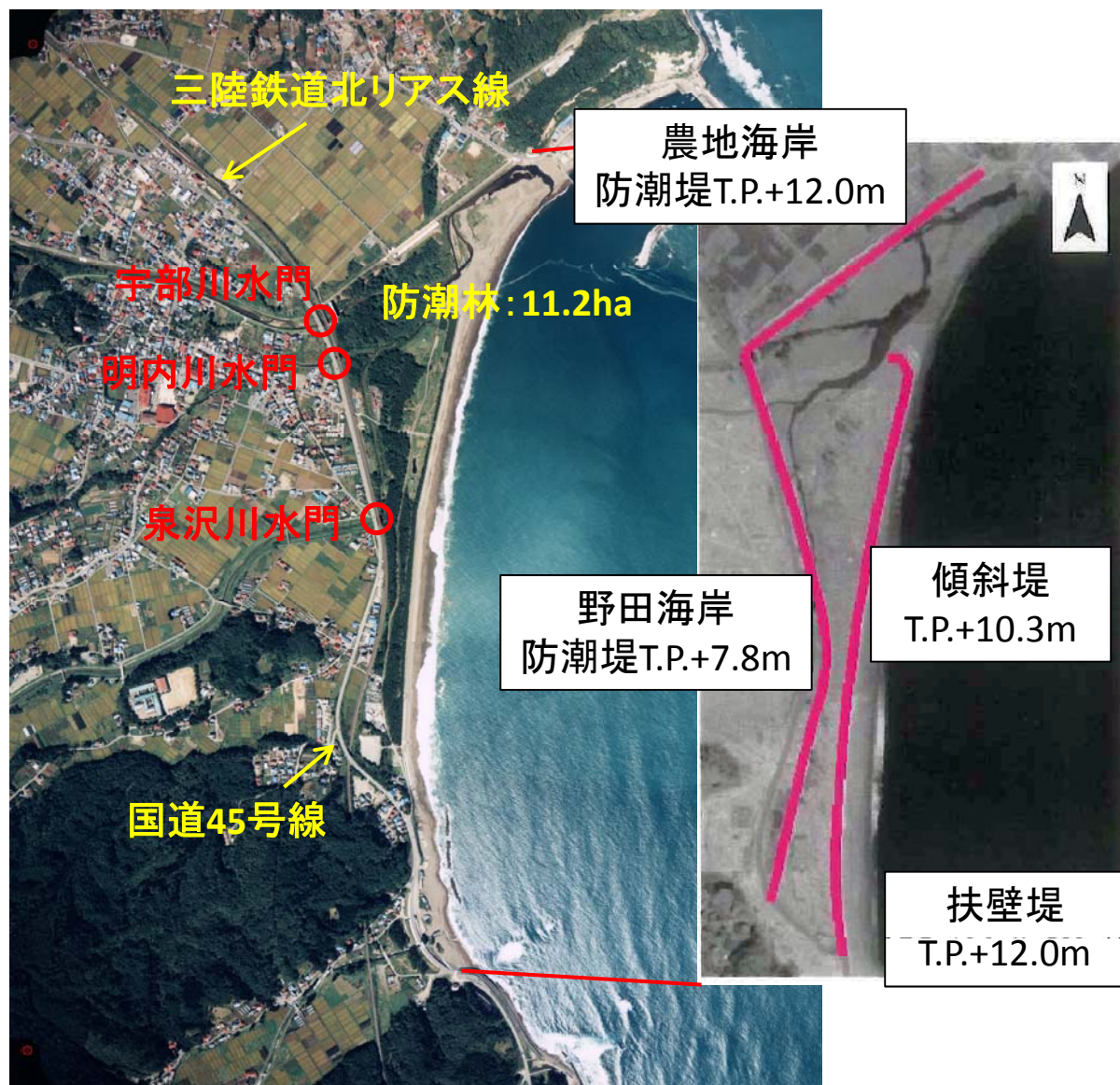


※東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループより

野田村の被害状況

市街地を中心に被害を受けた地域

被災前



津波襲来



■被災後



①:破壊された防潮堤



②:泉沢川水門 上屋全損



⑤:役場から海側



④:野田村役場



③:防潮林(11ha)倒木・流木



岩泉町小本地区の被害状況 臨海部の集落に被害を受けた地域



水門の側面から越流
両側・背後の建物が被災

小本中学校: 痕跡高 T.P.+6.5m



小本水門上屋: 痕跡高 T.P.+19.3m

普代村の被害状況 ほとんど被害のない地域



■ 普代水門



普代川河口から300mほど上流に造られた
高さ15.5m, 幅205m(1984年に完成)

被災後



水門を越流し普代川を約300m遡上
背後地の集落に被害は及ばなかった

■ 左岸側：山裾と接続



■ 水門より内陸側（管理橋）



宮古市田老の被害状況 壊滅的な被害を受けた地域



■ X字型防潮堤: 総延長 2,433m, 高さ T.P.+10.0m



田老防潮堤に津波が襲来する様子



撮影：柳澤清一

破壊された田老防潮堤

防潮堤高: T.P.+10.0m

■ 田老地区海岸防潮堤
天端・裏法損傷: 0.3km

■ 田老漁港海岸防潮堤
全壊: 0.6km



1933年昭和三陸津波と今回の津波の被災状況



まとめ

- **外力の想定を誤らない**ためには、
今回の経験および過去の被災事例を踏まえた上で、
容易なことではないが、来襲する可能性のある外力の上限と
その確率を科学的に解明し、その結果を基に対策の前提となる
想定を必要に応じて改めることが重要である。
- 岩手県沿岸部では、防災施設の整備を進めて来ており、
1960年チリ地震津波以降、大きな被害を受けなかった。
仮に、月日の経過に伴い過去の津波災害を忘れ、
防災施設の過渡の依存性によって、今回の悲劇を生んだとしたのならば、
この**経験を風化させない**ことが大切であり、
災害文化の継承が我々の責務でもある。

ご静聴，ありがとうございました．

野田湾を上空より望む



謹んでご冥福をお祈り申し上げます．